

テーマ展「茶道具の“い・ろ・は”」展示作品リスト

番号	指定	作品名称	員数	作者	制作年代	所蔵
はじめに ～茶の湯ってなに？						
1		茶経	2冊	陸羽	宝暦8年(1758年)刊行 (原本は唐時代に成立)	当館(井伊家伝来典籍)
2		喫茶養生記	1冊	栄西	元禄7年(1694年)刊行 (原本は建保2年(1214年)成立)	当館(井伊家伝来典籍)
3		喫茶往来	1冊		安永8年(1779年)刊行 (原本は室町時代成立)	当館(井伊家伝来典籍)
茶道具ってなに？						
4		褐釉四耳壺	1口		中国・明時代	当館(井伊家伝来資料)
5		青磁刻花牡丹文花生	1口		中国・明時代	当館(井伊家伝来資料)
6		竹寸切花生	1口	片桐石州	江戸時代前期	当館(井伊家伝来資料)
7		青磁香炉	1口		中国・明時代	当館(井伊家伝来資料)
8		交趾荒磯文香合	1合		中国・明時代	当館(井伊家伝来資料)
9		大名物 宮王肩衝茶入	1口		中国・宋時代	当館(井伊家伝来資料)
10		溜塗ぶりぶり中次	1合	満田道志	江戸時代中～後期	当館(井伊家伝来資料)
11		禾目天目茶碗	1口		中国・宋時代	当館(井伊家伝来資料)
12		堆黒屈輪文天目台	1基		中国・明時代	当館(井伊家伝来資料)
13		竹茶杓 銘 山時雨	1本	小堀権十郎	江戸時代前期	当館(井伊家伝来資料)
14		古染付車軸蓋置	1箇		中国・明時代	当館(井伊家伝来資料)
15		七宝荒磯花文水指	1口		中国・明時代	当館(井伊家伝来資料)
16		湖東焼 赤絵金彩翡翠図建水	1口	鳴鳳	江戸時代後期	当館(井伊家伝来資料 ・ 関東大震災罹災品)

番号	指定	作品名称	員数	作者	制作年代	所蔵
17		古天明責紐釜	1口		室町時代	当館(井伊家伝来資料)
18		鉄蜻蛉環	1組		江戸時代前～中期	当館(井伊家伝来資料)
19		叢梨地千鳥山水蒔絵茶箱	1式		江戸時代後期	当館(井伊家伝来資料)
20		多賀大社杓子菓子器	1枚	井伊直弼	江戸時代後期	当館(井伊家伝来資料)
21		花鳥図	1対	曹明周	中国・明時代	当館(井伊家伝来資料)
22		小堀遠州消息	1幅	小堀遠州	江戸時代前期	当館(井伊家伝来資料)
23		湖東焼 染付向付(五種)	5枚		江戸時代後期	内2枚：当館(井伊家伝来資料) 内3枚：個人
24		皆口銚子	1合	名越弥五郎	江戸時代後期	当館(井伊家伝来資料)
25		朱漆塗松竹梅文蒔絵盃・黒漆塗松竹梅文蒔絵盃台	1式		江戸時代後期	当館(井伊家伝来資料)
有名茶人“お好み”の道具！						
26		瀬戸鉄釉茶碗 銘 ゑぼし(千利休好み)	1口		桃山時代	当館(井伊家伝来資料)
27		御所丸茶碗(古田織部好み)	1口		朝鮮・李朝時代	当館(井伊家伝来資料)
28		鶴首茶入(小堀遠州好み)	1口		中国・宋時代	当館(井伊家伝来資料)
29		切子釜(片桐石州好み)	1口	山城市兵衛	江戸時代中期	当館(井伊家伝来資料)
30		象牙柄火箸(松平不昧好み)	1組		江戸時代中期	当館(井伊家伝来資料)
教えて！茶道具の使い方						
31		茶道便蒙抄	5冊		元禄3年(1690年)刊行 (延宝8年(1680年)成立)	当館(井伊家伝来典籍)
32	重文	茶湯一会集	1冊	井伊直弼	江戸時代後期	当館(彦根藩井伊家文書)
33	重文	彦根水屋帳	1冊	井伊直弼	江戸時代後期	当館(彦根藩井伊家文書)
34		黒文字	11本		江戸時代後期	個人

写真解説

1 大名物 宮王肩衝茶入 1口 (作品リストNO. 9)

中国・宋時代

高9.6cm 口径4.6cm

当館蔵(井伊家伝来資料)

茶入は、茶席で用いる抹茶を入れる容器で、その用途の重要性と端正な造形美から、茶道具の中でも特に尊重されてきました。

この茶入は大名物と呼ばれるものの一つです。大名物は、その多くが足利將軍家の旧蔵品であり、古くから世に知られた名品の中でも、とりわけ優品と讃えられてきた茶道具に冠される名です。「宮王」の名は、千利休の謠の師であった宮王三郎鑑氏 (?~1553) が所持したこと由来し、宮王の後、戦国武将松井友閑から豊臣秀吉に献上され、大坂城落城によって徳川家康の手に渡り、その際功績を挙げた井伊家2代直孝(1590~1659)に与えられ、井伊家随一の家宝となりました。

本作の姿は大ぶりで、肩の張った堂々とした形に威風が感じられます。表面に掛けられたガラス質の釉の色も変化に富み、魅力ある風情を湛えています。



2 禾目天目茶碗 1口 (作品リストNO. 11)

中国・宋時代

高6.1cm 口径12.8cm

当館蔵(井伊家伝来資料)

抹茶を入れて飲むための茶碗。中国・宋時代に制作された「天目茶碗」と呼ばれるものの一つです。天目茶碗は、現在の浙江省の天目山と、これに近接する福建省にあった窯で制作された茶碗の総称です。高僧や貴人への呈茶のために作られた高品質な茶碗で、天目台という台に載せて用います。手に収まりの良い朝顔形に小ぶりの高台を備えた形態、器の表面にガラス質の釉薬を掛けて焼き付ける際に自然に現れた斑や縞などの複雑な文様に特色があります。日本では、中国渡来の「唐物」の茶碗として室町時代から珍重されてきました。

本作は、全体に細かな線文様が見られます。これは、高温で焼く際に釉薬が泡立ち、黒い鉄の結晶が細かく分離した結果、いくつもの斑文が現れて連なってできた模様で、稲や麦の穂先に似ていることから「禾目」と呼ばれています。形や模様、質感など、いずれにおいても品質の高さが感じられ、天目ならではの気品にあふれた優品です。



【見込部分】

3 ^{しっぽうあらいそはなもんみずさし} 七宝荒磯花文水指 1口 (作品リストNO. 15)

中国・明時代

高10.0cm 口径19.2cm

当館蔵(井伊家伝来資料)

みずさし 水指は、点前で用いる ^{じょうすい た} 浄水を溜めておくための器です。本作は、中国で作られ、日本にもたらされた後に ^{くろうるしぬり ふた} 黒漆塗の蓋をあつらえ、水指として用いられた品です。

本作の器胎全体を彩る色鮮やかな模様は、七宝と呼ばれる技法によるものです。金属の表面に銅の輪郭線を施し、その間に ^{さんかえん} 酸化鉛などを含む色彩エナメルを埋め、加熱熔着させて表現しています。波間に踊る鯉、^{ぼたんからくさ しべんか} 牡丹唐草、四弁花唐草が華やかに表された優品です。



4 ^{こてんみょうせめひもがま} 古天明 責紐釜 1口 (作品リストNO. 17)

室町時代

高18.5cm 口径11.0cm

当館蔵(井伊家伝来資料)

茶を点てるための湯を沸かす ^{かま} 釜は、茶席の ^{あるじ} 主とも言われるように、点前に欠かせない道具です。本品は、^{しもつけのくにさののしょうてんみょう} 下野国佐野庄天明 (栃木県佐野市) で作られた天明釜の優品。

この釜の蓋のすぐ脇には、^{かんつき} 鑢付と呼ばれる ^{とって} 把手が付付けられています。鑢付は、^{かん} 鑢という金属製の輪を通し、釜に直に触れずに運ぶためのもので、本作のように蓋の近くに寄った形は、^{せめひも} 責紐と呼ばれます。責紐は、^{ひも} 鑢付に紐を通して ^{ふた} 蓋を押さえ、口をしっかりと封じるために生み出された形で、毒などの異物の混入を防ぐために考案されたと言われています。元来、責紐の釜は、^{きじん} 貴人に茶を献じる際に用いられましたが、後に釜の形態の一つのバリエーションとして広まることとなりました。



5 ^{てつとんぼかん} 鉄蜻蛉鑢 1組 (作品リストNO. 18)

江戸時代前～中期

長6.5cm

当館蔵(井伊家伝来資料)

^{かん} 鑢は、熱く煮えた釜を上げ下げする際に用いられる道具です。本作は、蜻蛉の尾の部分 ^{とんぼ} を釜に引っかけ ^{しやれ} る形で、洒落た作りになっています。蜻蛉の体全体を鉄で作 ^{ざうがん} り、目や胴体の節の部分に銀をはめ込んで模様を表す銀象嵌の技法が用いられています。



6 ^{ちやのゆいちえしゅう}茶湯一会集 1冊 (作品リストNO. 32)

井伊直弼 筆

江戸時代後期

縦26.8cm 横19.2cm

重要文化財

当館蔵 (彦根藩井伊家文書)

江戸時代後期の代表的な大名茶人として名高い井伊家13代直弼^{なお} (1815~60) が執筆した茶書。茶会の進行に沿って、主客の所作や会話の内容、心構え、茶道具の取り扱い方について説く内容で、直弼の茶の湯の教科書として弟子たちに写され共有されてきました。本書はその原本となるものです。

直弼が、茶の湯において最も重要視したのは心の交流でした。それを一言であらわしたのが、この冒頭部分に記された「一期一会^{いちご}」です。この言葉には、一度の茶会での出会いは一生に一度きりのものであるから、心を尽くして出会いの時を大切にしようという意味が込められており、その典拠は千利休^{せんりのきゅう}の「一期に一度の参会の様に」という言葉にあるとされます。現在、これは茶の湯の世界を超えて、人の出会いの本質を示す言葉となりましたが、そのきっかけを作ったのが、この茶書でした。

